特集／大塚 秀喜 桜川市長 4期就任インタビュー　広告　企画・制作　建設未来通信社広告部

道の駅や学校整備でまちづくり

～住みたくなる魅力的な桜川目指し尽力～

駅北開発で人口減少対策

◆プロフィール◆

大塚 秀喜（おおつか・ひでき）1961年10月18日生まれの64歳。桜川市真壁町出身。中央工学校建築設計科卒。2013年、桜川市長に初当選してから３期12年間務め、昨年10月に４期目の当選を果たした。時間がある時はYouTubeを観ることが多い。また、健康のため散歩の距離を増やしたいと考えている。

このたび、昨年10月の選挙で4期目当選を果たした大塚秀喜桜川市長。3期12年間にわたり進めてきた大和駅北地区開発は、地域医療センターが完成し、商業施設「ベイシア」も新年度オープン予定と、着実に前進しているところだ。今後も住宅地の整備や学校整備などにより、住みたくなるまちを目指していく。地元の建設業者とともに、これからも多くの事業を進める決意を固める大塚市長に、今後のビジョンについて話を聞いた。

◆3期12年間を経て

これまで、さくらがわ地域医療センターや真壁学園義務教育学校、生涯学習センター「さくらす」など、様々な施設整備を進めてきた。これらは市民の皆さんからも好評だと聞いている。新庁舎の整備も第1期工事を発注済みで、順次工事が進んでいく予定。

市長に就任して以来進めてきた大和駅北地区開発については、新年度には商業施設「ベイシア」が完成し、住宅地の整備も進む。まだ道半ばであり、今後さらに学校が整備されれば、より魅力的なまちづくりが進められる。人口減少にも歯止めをかけることができるのではと思っている。

大和地区の学校整備や道の駅の整備など、3期目で完了に至らなかった事業もあるので、今後もまちの発展のため力を尽くしていきたい。

▶大和駅北地区商業施設のイメージパース

工業団地で雇用創出も

◆道の駅で賑わい創出へ

大和駅北地区でのまちづくりについて、本年度は道を大和駅北地区内で整備できれば、さらに魅力的な地域になると思う。中学校を新設しての小中一貫校なども視野に入れるが、地元住民の方々の意見を聞きつつ、方針をまとめていきたい。

岩瀬地区での学校統合も検討している。岩瀬体育館（ラスカ）の活用や、岩瀬東中学校の敷地内での整備なども想定しつつ、検討を進めているところ。早期に方向性を固めていきたい。

◆命を守る空調整備

学校の体育館は子どもたちの学習の場であり、また避難所としても利用する場所。夏季の猛暑などに対応するためにも、空調整備は進めていく。

学校再編を進め、跡地を活用することになっても、体育館は地区の避難所として残す予定であることから、空調整備は順次進めていく予定。

新年度には岩瀬西中学校、岩瀬東中学校の体育館などを対象に設計を進められれば。小学校の体育館についても、計画的に実施していきたい。

◆各地区の学校統合を検討

学校整備については、大和地区の雨引小、大国小、岩瀬地区の坂戸小の統合を検討する。これらの統合校の跡地を活用する可能性について検討するための調査業務委託を行っている。ベイシアなど、商業施設を整備する土地8haのうち、4haを道の駅整備に充てる計画で、このうち1haは市、3haは民間で進めていく構想。官民連携での整備、運営を考えている。

道の駅には、既存の加波山市場の機能を移転する見通しで、このほか民間からも出店に前向きな声が上がっているところ。

今後は調査結果を踏まえ、さらに検討を進めていく。

◆学校跡地活用へ公募

学校の統合が進めば、跡地の利活用を検討する必要が出てくる。すでに閉校した桜川中や樺穂小、谷貝小、猿田小の跡地は、事業者の公募を開始した。この件については、優先交渉権者の決定を今年5月で予定している。

大和地区の学校など、今後統合が進む学校跡地についても、利活用について民間事業者を公募する形になるかと思う。また、場所によっては市の公共施設が入ることなども検討したい。

◆上下水道は県や国と連携

水道事業については、県と「茨城県における水道事業の経営の一体化に関する基本協定」を締結しており、2028年をめどに一本化していく予定。漏水対策も、修繕に係る補助金などについて国に要望をかけている。

市単体で進めるのではなく、県と歩調を合わせ、国の力もお借りしながら上水道整備に取り組んでいきたい。

下水道については、農業集落排水を公共下水道に切り替える広域化を考えている。時間はかかると思うが、着実に進めていければ。

◆豊かな自然活かし観光振興

上曽トンネルの完成により、市内道路を走る車両が多くなったと感じる。こうした流れを活かすため、観光面にも力を入れられれば。

筑波高原キャンプ場は、ロッジ、東屋などの解体、トイレの建て替え、テントサイト整地等を進め、シンプルで使いやすいキャンプ施設とする予定。自然に負荷をかけない「筑波山の自然を楽しむための登山基地」をコンセプトとする。

上野沼やすらぎの里キャンプ場は利用者も多いため、既存施設のグレードアップも視野に入れている。その場合には官民連携で進めることも考えている。

◆大規模な工業団地も推進

岩瀬体育館北側の、茨城県が所有する岩瀬工業団地、約40haの山林については、県および県開発公社などに協力していただき、工業団地としてさらに開発を進められればと思う。民間で所有している土地を市が買い取り、これを合わせることができれば、かなり大規模な工業団地開発ができる。

企業誘致も動いているが、まだまだこれから。雇用創出にも繋がるので、市のセールスマンとして企業に対する声かけも続けていきたい。

◆市内の事業者を大切に

未来クラブ協同組合など、市内の建設業者との繋がりは今後も大切にしていきたい。

災害時の協定なども締結しており、また水道の漏水など緊急性が高いものについても、地元業者でなければ対応ができないと思う。信頼している心強い存在なので、良い関係を続けていければ。

これから市で進めていく多くの事業には、地元業者の力が必要不可欠。地元企業の育成の観点からも、市内業者に対する公共工事の受注機会の確保を積極的に行なっていく。

行政と建設業界が連携し、人材育成や働きやすい環境づくりも推進して、共に手を携えて「誇れるまちづくり」を進めていきたい。

地域の守り手として桜川市発展に貢献いたします

桜川市未来クラブ協同組合

理事長　白田 唯雄

副理事長　玉造　茂　　副理事長　吉田 康廣

足立建設㈱	伊藤設備工事	櫻川造園土木	㈲ダイワ建設	㈱萩原工業	㈲藤田土建	渡辺建設㈱
㈲雨谷工業	㈲稲葉建設	㈲島田造園土木	㈱田口建設	白田工建㈱	㈱堀石材工業	渡辺工業㈱
㈱アールエス	㈲茨城銘石	㈲下条工務店	㈱たばやし	㈱ハグロ	増渕木材店	㈲渡辺信也石材
㈱阿波屋	榎戸工務店㈱	㈱下條土建	玉造建設㈱	㈱平井商店	㈱マルニ工業	
飯田建設㈱	㈱大塚材木店	鈴木建材㈱	塚田造園建設㈱	㈲平石緑化土木	丸和建設㈱	
㈱石川設備	㈱大橋工業	㈱鈴木工業	つかはら設備工業	㈱平田建設	宮本造園	
市村建設㈱	金沢工務店㈲	㈲鈴木工務店	㈱にのみや工務店	㈱ヒロサワ	㈲谷中工務店	
㈲市村工務店	酒寄造園㈱	㈲鈴木製材所	㈱仁平工務店	㈲広沢工務店	柳田工業㈱	
市村土建	酒寄鉄工所	大洋建設㈲	野口木工所	㈲廣瀬産業	大和土建㈱	